【生薬名】蝉退　*CICADAE PERIOSTRACUM*

【起源動物】ｽｼﾞｱｶｸﾏｾﾞﾐ　*Cryptotympana　pustulata*

【 科　名 】セミ科*Cicadidae*

【 別　名 】蝉蛻(ｾﾞﾝｾﾞｲ)、枯蝉(ｺｾﾞﾝ)、腹虫育(ﾌｸｲｸ)

【薬用部分】セミの抜け殻、その他のセミの脱け殻も利用出来る

【主 成 分】キチン質、ケラチン、窒素、灰分

【 薬　性 】気味は鹹甘寒、帰経は　に属す

【 効　能 】●疏散風熱・利咽喉・退目翳・定驚癇

●外観上風熱、咳嗽のあるもの、及び蕁麻疹、皮膚瘙痒症など…蝉退は風熱を発散させる作用がある、蕁麻疹の瘙痒についても止痒作用がある

●咽喉腫痛および声がれ症など

●眼の充血腫痛、白内障などで風熱が引き起こすものによい

●熱水抽出エキスにインターフェロン誘起作用が認められる

●

【 出　典 】●小児の驚癇、産婦の子の下らぬものを治す(蝉殻：名医別録)

●小児の壮熱、驚癇を治し、渇を止める(蝉蛻：薬性論)

●治小兒驚癇．夜啼．癲病寒熱．（蚱蝉：神農本草経中品）

●頭風、眩運、皮膚の風熱、痘疹の癢きもの、破傷風、及び疔腫毒瘡、大人の失音、小児の噤風、天弔驚哭、夜啼、陰腫を治す(本草綱目)

【 備　考 】●蛻殻を用いるには、沸湯で洗って泥土、翅、脚を去り、糊を溶いた水で煮てから晒し、乾かして用いる。蝉は土、木の余分なエネルギーの化したもので風を飲み、露を吸い、その気が清虚なものだから、主な治療上の功効皆一切の風熱の証である。

【 処方例 】●消風散